

団地組合で夏まつりを開催 （従業員と地元住民が交流）

ACTIVE KUMIAI



開会のあいさつを行う埴原理事長

協同組合国母工業団地工業会（理事長埴原甲二）は、7月16日（水）国母公園グランドにおいて第39回夏まつりを盛大に開催した。当日は好天に恵まれ、組合員の従業員とその家族や近隣住民を含め約2千名が参加した。

開会セレモニーで埴原理事長の開会のあいさつに続き、山梨県産業労働

部高根理事、中央市田中市長が来賓のあいさつと来賓の紹介が行われ、夏まつりが開会した。

まつりには各組合員企業が工夫を凝らした模擬店13店が出店し、会場全体に芳しい香りを漂わせながら採算度外視で来場者のお腹を満たした。特に子供たちにはくじ引きの模擬店が大人気であった。

また、「カラオケのど自慢大会」や「夏まつりラッキーくじ」など趣向を凝らした多彩なイベントも繰り広げられ、会場は大いに盛り上がった。

カラオケのど自慢大会では、5チーム18名が自慢の歌声とパフォーマンスを披露し、山梨電子工業株式会社の三人組がコブクロのサクラを絶妙なハーモニーで歌い上げ最優秀賞となつた。また、のど自慢大会のゲストとして招いたものまねの歌姫と称される「レディーエリカ」が抜群の歌唱力でポップス等幅広いジャンルのものまねを披露し、観客から大きな拍手を浴びていた。

夏まつりラッキーくじ抽選会では、組合員企業や協賛企業31社から提供されたデジタルカメラや豪華玄関マットなど約100点・総額40万円に上る景品の抽選が行われ、抽選発表のたびに来場者は「喜」憂していた。

この夏まつりは、組合員の従業はもとより従業員の家族をはじめ地元住民の親睦交流の場として組合設立当時から開催されているもので、組合としての大イベントとしてだけではなく、甲府市から中央市、昭和町に広がる国母工業団地の夏の風物詩ともなっている。



賑わいを見せる模擬店